

創立73周年  
令和5年度12月号



# 咲かせよう大正の花 つなげよう大正の未来

台東区立大正幼稚園

HP: <https://taito.ed.jp/swas/index.php?id=1380011>



## ぞう組はみんなのあこがれ

園長 北村 恵

朝晩の空気の冷たさに秋の深まりを感じる日々です。今年も園庭の柿の実がたわわに実り、先日年長の子供たちと一緒に収穫しました。残念ながら、渋柿なのですぐには食べることはできませんが、これから頑張ってお漬物にしたいと思います。柿の木は道路側にあるので、収穫している時に通りかかった近隣の方からたくさん声がかかりました。絵を描きたいという方、お漬物にしてみたいという方にはおすそ分けしました。高い所の枝はさすがに届かず「鳥にも少し分けてあげよう」と言って終わりにしましたが、それでも、年長児が数えてくれたところ342個もあったそうです。その多さにもびっくりしましたが、数えた年長児にも驚きました。

11月には2回目の和太鼓の会があり、例年同様その日は、年長児の保護者に「キッズソーラン」を披露しました。昨年まではショートバージョンの曲を使っていましたが、今年度はとても上手になったので、フルバージョンの曲で演奏しました。ぱんだ組もお客さんとして参加し、カッコいいぞう組の演奏に見とれていました。演奏後、ぱんだ組からは「すごくカッコよかった！もう一回見たいぐらい！」と、最高の誉め言葉をもらい、保護者の方からも「真剣な顔で叩いていて感動した」や「涙が出そうになった」などの言葉をもらうことができました。自分たちでも「楽しかった！」「ちょっと間違えちゃったけど頑張った！」といいながら、達成感いっぱい笑顔が見られ、私も嬉しくなりました。実はその日、ぞう組のプライドに関わる出来事があったのです。

10月の太鼓の会の後から担任の先生と一緒に、この日まで毎日、降園前の時間に練習を重ねてきていて、太鼓の音が聞こえると、ぱんだ組うさぎ組も自然と集まり、観客になっていました。そのうちいつの間にか、教わっていない年中児まで振りを覚えて、自分たちで曲をかけて、バケツにガムテープを貼った太鼓とラップの芯のバチで、年長児顔負けの叩き方で自分たちなりの演奏をするようになっていたのです。その様子を見た、太鼓講師の江上瑠羽先生も驚かされていました。ぱんだ組は、ワークショップの時間に自分たちから、「キッズソーランがやりたい！」とリクエストして曲に合わせて叩かせてもらっていました。その姿を「自分たちの曲のはずなのに！」という思いで驚いて、複雑な表情で覗いていたぞう組でした。その時は、「ぞう組がカッコいい姿で叩いていたからこそ、ぱんだ組があんな風に叩けるようになったんだね」と伝えましたが、きっと納得していなかったのだと思います。自分たちの番になると「もっと難しいことがやりたい！もっと難しいこと教えて」と先生に訴えていました。ぞう組としてのプライドがそう言わせたのではないかと思います。だからこそ、ぱんだ組からの「もう一度見たいぐらいカッコよかった！」という感想は最高の誉め言葉になりました。いつも、みんなのあこがれのぞう組はきっと生活発表会でもみんなが真似したくなるような、素敵な姿を見せてくれることと思っています。